

ベトナム子供基金
〒113 東京都文京区本駒込2-12-13
アジア文化会館内アジアセミナー室気付
TEL:03-3946-4121 (代) FAX:03-3946-7599

QUY HOC BONG LA XANH (ベトナム青葉奨学会)
c/o TRUONG NHAT NGU DONG DU (ドンズー日本語学校)
43D/46 HO VAN HUE, PHU NHUAN, HO CHI MINH CITY,
VIETNAM
TEL:84-8-8453782 FAX:8454228

ホウ工先生との懇談会が開かれました

6月にホウ工先生が来日され、6月30日アジア文化会館にて子供基金の会員の方々との懇談会が開かれました。突然の来日だったため急な開催となっていたのですが、約70名の方々に参加していただきました。今回の子供基金通信はこの時の内容を中心にお伝えします。



—ホウ工先生からのお話し—

今日、大勢、集まっていたいで、特に日曜日、貴重な時間を使ってここに集まってくださりまして、どうもありがとうございます。私もベトナムの学生の代わりに皆さんにお礼を申し上げます。皆さんのおかげで優秀な学生がたくさん勉学の機会に恵まれて、とっても幸せに過

ごしています。皆いい成績を修めていると思います。

青葉奨学会の状況についてちょっと簡単にご報告をいたします。現時点で奨学生の数は464名(北陸ベトナム友好協会、沖縄青葉奨学会の奨学生を含む)になっております。ベト

ベトナム子供基金通信第3号

目次

- | | | | |
|---------------|------|------------|-------|
| ・ホウ工先生との懇談会から | --1P | ・青葉奨学会会計報告 | --11P |
| ・子供たちからの手紙 | --9P | ・子供基金事務局より | --12P |

ナムの学校では9月に新学年が始まります。だから今年の9月からまた学生が増えると思います。なぜかといいますと、東京のベトナム子ども基金の里親になっていただいた方も大勢いますが、学生の組み合わせができてない人もいますから、9月中にできるように私たち頑張ります。

どういう学生がこういう奨学金をもらっているかと申しますと、私たちの方針としては、まず優秀な学生、それから家も貧しくて、性格が素直な子。それから将来、伸びる可能性がある子だけにしか奨学金をあげません。なぜかといいますと、我々の活動は慈善活動の意味はもちろんありますが、他方、彼ら人材の養成の意味もありますから、青葉奨学生がこれからどんどん進学していい社会人になってほしいと、それは皆さんも期待し、私自身もそれを楽しみに考えております。そういう人たちに奨学金を与えます。

どういうふうを選ぶかといいますと、「青葉奨学会は今年度、何人分の奨学金を用意しております。ぜひ学校から推薦して下さい。」と学校毎に依頼します。たとえば5人の奨学生を選ぶ場合は、私たちはだいたい7人か8人の推薦を受けます。もらった推薦状と履歴書とか学歴のことを全部もう一度審査します。書類審査だけじゃなくて、人を派遣して本人に直接会って、家まで行って、どういう状況であるかということ进行调查します。すると、おもしろいことがたくさん発見できました。貧しいといっても家は新しい、ホンダバイクいっぱいある。それから、れんが作りの家を持つ人もいますね。しかし、とっても貧しい、ぜひ出してほしいという審査の方からの意見もあります。たとえば小さい家で金もない。竹で編んだ簡単なもので風とか雨をしのぐだけのところもありますから。それから、とってもいい子だから、審査の皆さんぜひ出してほしいという場合もあります。だから、やっぱり本当に必要か、いい子であるか、貧しい家かと、全部もう一度審査して、はじめて委員会にはかります。一人が決めるのではなく、ホーチミン市の事務局、それから調査に行った協力者の方々の報告を聞いて、成績表を見て、それからこの子がいいと決めて決定書を書きます。それを学校を通して本人に通知します。それから奨学金の支給日を知らせます。ホーチミン市の市内と郊外の学生たちに対して、そういう方法でやっております。

遠いところ、たとえば中部のフエでは、いちばん古い歴史がある名門の中学・高校の前の校長で、今は退職なさっておられる先生にお願いして、全ての学生を選考して送ってもらっています。それからダナンのほうにも奨学会があります。この奨学会は大変歴史が深いです。もう、70年ほど前からできたです。そのダナンの近辺はいい学生が多いです。勤勉な学生、貧しいですから、一生懸命に勉強します。ダナンの奨学会を通じて皆さんの奨学金を配っております。それからメコンデルタの方は、やっぱり私たちが直接学校に行って学生に会って渡します。しかし、それは1年に1回か2回しかできません。他の場合は郵送します。たとえば今月分はいくらと、その先生あてに、先生からまた学生に渡してもらっています。今まで問題はほとんどなかったです。

東京の事務局と里親の皆さんに対して、まだ不十分なことがたくさんあります。たとえば連絡が意思が不通場合があります。誤解する場合があります。連絡が遅れたり里親に学生の組み合わせが遅れている。それから学生に手紙の翻訳できなかつたことも、ミスたくさんあります。それはまずホーチミン市の事務局の責任である。それはいろいろの原因があります。第一番は、私たちの能力の問題があります。経験の問題もあります。設備の問題もあります。しかし一つ一つ片づいて、これからたぶん軌道にのると思いますから、皆さんご安心ください。私たちは頑張りますから。まえば事務局に一人も専任がいませんでした。みんなアマチュアで週一回集まってやるだけだったのですが、最近、毎日専任の方を3人も増強しました。それから日本人の先生方も今現在3人も手伝ってもらっています。今までは、そういう人たちだけしかやっておりませんが、最近、各学校ですね、先生方もやっぱりいい奨学金、奨学会であると、ぜひ自分も参加したいと、一般の先生方、社会人も参加しはじめるようになってるんです。今まで小さかった、一部のごく数人の仲間です。現在はひろがっているですね。まだ新聞報道されていないですが、しかし一般の人々の会になっております。それでみんな大勢が集まった会になったから、だんだん仕事の方も効果的にやれるようになると思います。

さっきここに入るまえ、運営委員会のお一人から「これから5年、10年さき、どういう展望を持っているか」と質問されました。皆さんも同じことを考えてると思いますが、私の考えを述べさせて下さい。奨学生はみんな優秀な学生である。それから素質がいい学生、将来性がある学生ですから、5年後10年後みんな立派に成長するだろうと私、確信を持っております。10年後だったらもう400人の大学生みんないい人ばかりだったら、ベトナムの社会に喜んでもらえるのではないかと思います。そういう人たちも固まっていいことをやってもらえるのじゃないかと、それを私個人としては楽しみにして頑張っております。

皆さんもたぶん私と同じように考えているんじゃないかと、やっぱり彼らの成長を楽しみにして、頑張っておられると思いますから。そういう方向で

我々が少しずつやってあげて、彼らが成長して私たちの力とあわせて、もっとこの会、意味がある活動にしてもらいたいと、それが私の課題です。学生の成長はまちがいないです。しかしそういうところまで行くには、なんとか学生が我々の考え方、我々の望んでいる、彼らに期待すること等を、学生に理解してもらうことが大事です。この活動も彼らが今、奨学金もらってますけど、将来ただ参加するだけじゃなくて、積極的に活躍してもらいたいと、もっと意味がある奨学会にもらうこともしなければなりません。それは、私はじめホーチミン市の事務局の先生方もこれから頑張っていっしょに相談して、そういうところまでもっていくつもりです。そういう考えです。

---ホウエ先生との質疑応答---

先生からのお話のあと質疑応答に移り、参加された会員の方々からの質問に答えていただきました。主なものを紹介します。

Q：奨学金を受けられるベトナムの子どもたちは、日本でいうと小学校1年生にあたる年頃からということになりますか。

ホウエ：必ずしも小学生からじゃなくてもいいです。原則としては小学生、中学生、高校。里親の皆さんが選んでもらうことですが、私個人の考えでは、やっぱり小学生は白い紙、真っ白な紙と同じです。これから私たちの手で世話したら立派に成長するんじゃないかと。中学生、高校生は個性ができあがったですね、いい子だったらいい子、悪い子は悪い子、我々の影響力は、ほとんどないですね。私はそういう意味で、ちょっと時間はかかりますが、小学生から里親になってもらったほうがいちばんいいんじゃないかと思います。しかし、中学生の里親になってもらっても構いません。

Q：昨年グエンさんという国会議員の方にお会いしたときのお話で、2000年くらいには義務教育を現在の5年からもう少し上へあげたいと、伺いました、もう一つは青葉奨学生の子どものための就職口について、国の経済事情もあるわけですが、そのへんいかがでしょうか？

ホウエ：現在、義務教育は5年になっておりますが、実際は行き届いていないところもあります。辺境のところに学校や施設がまだないところもあります。それから先生も待遇が悪いから、遠いところに行きたがらないところもあります。街の子どもの中には、家が貧しくて、昼間はどうしても稼ぎがなければ生活できない子もいます。靴磨きとか、新聞を売るとか、宝くじを売るとか、そういう仕事をやってお金を稼ぎます。そういう学生には、今、夜間教室があります。ボランティアの方々、政府じゃなくて

地方の有志が集まって自分の家で学生を呼んで教育するところもあります。経済が困難で学校に通わない学生もいます。政府としては、一生懸命なんとかして義務教育5年を徹底できるように今がんばっております。もちろん、2000年までには、もっと上げていくのを皆が望んでいます。政府の役人だけじゃなくて一般の人もぜひ中学校の3、4年までやってもらいたいと、それは気持ちだけ。実際は、まだまだやるのがたくさんあります。

それから将来、奨学生の就職の見通しはどうかということですが、それは心配はいりません。ベトナムは、これから工業が発展しますので、仕事がいくらでもあります。特に優秀な学生だったら、もうそういう心配ありません。うちの奨学生はみんな優秀な学生ですから、人よりも先にいい仕事につくのではないかと思いますので、就職の問題は、青葉奨学会の場合は問題にならないと思っております。うちの学生も、できれば大学までやりたいとおもいますから、就職できるだけじゃなくて、みんな立派にいい指導者、いい手本になってほしいと、上の層の人間になってもらいたいという考えですね。就職は問題ないし、それ以上のことを期待しております。

Q：奨学金を毎月、現金で手渡しというのは何か他に方法はないんでしょうか。

ホウエ：それは事情があります。ベトナムの現在は、お金いくら持っても足りない状態です。いっぺん渡せば、すぐ使ってしまいます。たとえば、一年分のお金を渡してしまえば1か月目は楽ですが、その後は大変苦しいです。だから私たちは大変面倒なことではあります。何回も分けて手渡したほうが効果的じゃないかと考えております。それから学生自身も忘れるのは早いですから、「9月はじめに渡したらもうおしまい。」では有りがたみがないです。毎回もらった度に、里親からこういうお金をくれるということも思ってもらいたいです。大変面倒なことですけど、やらなければならないのではないかと考えております。

Q：私の場合男の子を紹介していただきました。それで、その子がもし一定の成績に達しなかったら、奨学金を打ち切るということなんですけど、その子の気持ちとかは考えていただけないんでしょうか。努力してもできない子もいるでしょうし、優秀な子しかというのは・・・。今の日本を見れば学歴偏重ということを考えたら、いじめの問題とか、ただもう成績のいい子だけが優秀だとされると、あとの子どもたちはかわいそうだと思うし、私はむしろ普通の市民的な常識のある人を育ててほしいと思いませんけど。

ホウエ：実は私たちも同じことを考えております。ただ学生に対して、建て前・原則をはっきりさせないと、学生が安心してずるずると、来年ももらえるから頑張らなくてもいいということにならないように、刺激を与える。頑張らないと来年は奨学金もらえないぞと、そういうことだけです。実際は、学生の学校の成績、先生の評価をもとにして、中には中ぐらいの成績から後で伸びる子もいますが、最初審査するとき、そういう建て前を置かないと、あまり良くない学生も入ってしまいますから。いったん採用されたら、こんどは考え方も弾力的に、学生の勉強をみまもってやらなければならないと思います。

今まで打ち切りは1%2%しかありません。学生が特に悪かった場合ですね、たとえば奨学金ももらいに来ない、自分がえらいから奨学金ももらえることがあたりまえ、そういう子が去年一人出ました。そのような場合、私たちは、断固として打ち切ります。それから問題なのは、学生が急にあまり学校に出てこなくなって成績うんと落ちた、そういう子だけです。この場合は私たちから説明して、この子はこういう問題がありますから、どうか里親の皆さんの意向を聞いた上で初めてあげないかあげるか決めますから、事務局だけでは決めてません。学生の勉強状況、先生の意見も聞いたうえで、また皆さんに伝えますから、皆さんに決めていただきたいと、そういう考えです。たぶん、打ち切られる学生はほとんどないです。1%、2%しかありません。特別の場合だけです。

Q：現地を見るということはできるんですか？たとえば、先生の学校を見学したり子どもたちの教育の現状だとかを。

ホウエ：それは機会があればぜひ見ていただきたいです。近い将来、里親の方を学生に合わせる計画です。今年はキャンプを考えております。しかし申込者が少ないので10人程度でもやると、実験的に問題をさぐる意味で、今年の8月か10月に実施したいですね。もしできれば、あなたもご参加ください。学生と一泊か二泊いっしょに生活して、旅行していただいて、どういう学生であるかと、そういうことも企画しております。

Q：子どもが将来留学を希望した場合、奨学会として、どの程度の援助を考えてらっしゃいますか？また貧しい家庭の子どもに現金を渡すということで親の働く意欲が減少するとか、そういう問題はないのでしょうか？

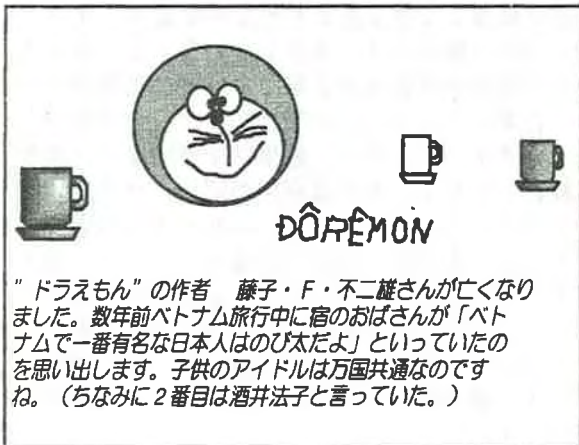
ホウエ：まず留学のことですが、現在は青葉奨学会とは別にドンズーの企画があります。うちの学校の目的は、一つは青年を海外に送って勉強させることが使命であると。現在も毎年15名から20名くらいの学生を送っております。たとえば、静岡の日本語学校の10名と東京の方の1名は、私といっしょに日本へ来たばかりです。こんどの10月には5名追加予定です。それから今回日本に来た目的は、各専門学校を一部まわって協力をお願いすることでした。各地の専門学校が12ほど、ベトナムの留学生を

うけいれることで合意しました。そういう留学生は、毎年15名から20名確実に送れます。我々の考え方は、むしろこれからどういう人を選ぶかと。いい人を選んだら、将来実っていい人材になってもらえると。これからたいへんです。私個人としては、青葉奨学生の子が大学まで行って留学したければ優先的に留学のチャンスを与えるべきと考えております。今現在は20名ですが、これから数が増えそうですから、青葉奨学会の学生も、できれば多く日本に留学させたいですね。彼らの勉強の時間は、できるだけ全部面倒みてあげたいという考えです。留学のことは、一応青葉奨学会とは切りはなして、里親の負担になるんじゃないかと、もし保証人になってあげるとおっしゃるのでしたら喜んで受けますが、べつにお金を出して留学させてほしいということは、私たちが考えておりません。

二番目の問題ですね、奨学金と親の働く意欲に関係があるかどうかと。まず、奨学金は、私たちの考えでは財政の援助よりも名誉、励みになることが大事です。一部の事務局から、もっと奨学金の金額上げたらどうかと。お金上げたら、やっぱりお金の価値になってしまうです。一つの賞ですね。自分の頑張ったことを人々に認められたのが奨学金です。そういう意味で、私たちは、できるだけ現在の金額でおさえたいです。それ以上出したら、やっぱり変な効果が出ます。そういう考えです。奨学金の金額が小さいから、親の働く意欲に影響与えないとおもいます。それから家計にも影響がないと思います。学生は、自分がやっぱりよく勉強したからみんなに認めてもらえたと、それが喜びになると考えます。

Q：ドンズー日本語学校と青葉奨学会の関係について教えてください。また、青葉奨学金を受け取る学生で、将来高校生ぐらいになったら、ドンズー日本語学校に奨学生として入学させるというお考えはないのでしょうか。

ホウエ：ドンズーと青葉奨学会とはどういう関係があるのかということですが、関係あるといってもいい、関係ないといってもいいです。あるのは、青葉奨学会はドンズーの一つの活動として存在した。実際はドンズーの先生方が、



"ドラえもん"の作者 藤子・F・不二雄さんが亡くなりました。数年前ベトナム旅行中に宿のおばさんが「ベトナムで一番有名な日本人はのび太だよ」といっていたのを思い出します。子供のアイドルは万国共通なのですね。(ちなみに2番目は酒井法子と言っていた。)

日本人の先生もベトナム人の先生もいっしょにやってる。ですから、青葉奨学会は、ドンズーの活動の、事業の一つである。しかし、ないといたのは、ドンズーの学生が青葉奨学金を受けることはありません。全て、貧しい、優秀、性格がいい子にあげるですね。そういう学生がまだ小学生、中学生、高校生ですから、まだ外国語を、日本語を学ぶ時期になっていないです。そういう学生は、うちの学校では数名を除いてまだ勉強しておりません。しかし、逆に奨学生になったら、日本語を勉強したい、日本の友人たち、里親からお金もらったから、日本に対して興味をもって日本語を勉強したい、将来日本に留学したいという学生もいます。そういう奨学生は、勉強したければ、全部学費免除でドンズーで勉強させてます。今回奨学生の一人が静岡に留学することになっております。その女の方、近いうち機会があったらぜひ静岡から呼んでください。本人はフエの出身者ですから、高校時代から奨学金もらって大学に行きました。大学も引き続いて奨学金もらってますから、いい子ですから、今回、留学生として選びました。

Q：たとえばもし寄贈してもよろしいんですたら、たとえば、文房具とかをお送りすることもある程度できるんですけれども……。

ホウエ：物資を援助することについては、私こういう意見があります。ときどき友人の方が日本からお菓子や文房具をもってきて学生にあげるです。それはもちろん心が大変貴重なものですが、しかし持っていくことも大変なことです。荷物の重さにもよりますが。たとえば1冊のノートは東京でいくらですか？はい、100円ですか。たとえば100円だったらその100円で現地で5冊買える。だから、わざわざ皆さんこっちから持って行かないで、現地で5倍くらいのノートが買えます。それから、学生がもらったノートは大変高価なものです。もらって学生は使わない。自分の字へただから、使うともったいない。それから、もったいないから売る。売ってから安いノート買ったらいいですけど、買わない場合もあります。そういうことですから、もし物資を援助を考えたのなら、私の考えでは、やっぱりベトナムにきて、学生の生活に近いもの、ノートとか鉛

筆、現地で購入してあげたほうがいいです。それから、文房具だったらいいですけど、それ以外のこと。お菓子とか、おもちゃとか、そういうことは、しない方がいいです。甘いことやったら、かえってよくないと思います。

Q：基本的なことなのですけれども、義務教育が5年間ということなんですが、その5年間に親は子どもを学校に行かせるためにどれぐらいのものを金銭的に負担するのか。たとえば、教科書、文房具、それ以外に学校の設備費など、それから制服みたいなもの、カバンとかそういうようなものについてはどうなんでしょうか。

ホウエ：じつは大変悲しい現実の問題があります。義務教育といっても日本ほど、親は心配なし、全部国がめんどうをみってくれるというわけではありません。むしろ、政府がめんどうをみってくれる割合がまだ小さい。たとえばですね、今ホーチミン市で大変問題になっている。国立の学校が半分以上学費をとるようになってる。とるだけじゃなくて高い授業料をとる。小学校の一年生からもとるんです。理想は良かったけど、現実問題あります。

そういうことは、大変大きな社会問題になっております。だから、無料の学校に入ることは大変難しい。それから汚職の問題あります。優秀だから公立学校に入れるわけではありません。公立といってもやっぱりお金出さないと、場合によっては、もうすごい金額を出すんです。一般の学校もだいたいお金出さないと子どもが勉強できないところが多いです。学生は、費も出さなければならぬです。教科書も買うお金がなければならぬです。やっぱり奨学金は全部、学費に使うんだったらまにあうんですが生活費までは全然まかせないと思いますよ。小学生の奨学金は、実際そういう矛盾があります。制度は義務教育5年ですけど、実際は決めた言葉のうえだけ。実際は国民が、全部負担しています。それから、将来は中学校までの義務教育としても、それは理想の問題。それが現実をどういうふうにもっていくか大きな問題です。今、小学校一年生の学校も足りない。先生もいない。それから一年生もお金を出さなければ、入学できない状況になっておりますから、そういう実際の問題がたくさん残っています。日本の義務教育と意味はまた違う、そういうことです。

Q：この前、生徒さんから手紙がまいりまして、翻訳も付けていただきましたので。写真で見ると大変もう利口そうな子どもさんで、できれば手紙を書いてあげたいと思うんですが、日本語で書いてもどうにもならないでしょうしどうしたらよいでしょうか？

ホウエ：日本語の手紙を書いて、送って下されば、うちの先生とか学生がベトナム語に直します。逆にベトナム語の手紙を日本語に直すのは、なかなか時間がかかるものです。だから日本人のほうがやりやすい。だから今後、日本の先生方とか、また有志の方、またさつき委員会「意見も出たんですね。だから外語大とかベトナム語を習っている方々の力を借りて、ベトナム語から日本語に直すことも考えております。日本語からベトナム語に直すことは簡単です。それはドンズーの学校が充分できます。ですから皆さん、手紙ご遠慮なく送ってください。

Q：日本でいいますと文部省というようなものがベトナムの方ではどんなふうな位置にあるのか、具体的なことも教えていただければと思うんですが。

ホウエ：はい、ベトナムにも文部省という省があります。それ国全体の教育の問題を担当しております。しかしその中にまだ二つ、中央政府の管轄と地方行政の管轄。高等学校までと専門学校は、地方の管理の下で地方の予算でやります。大学以上は中央政府がその予算を出しております。中央政府も予算がたらないし、地方の方も予算たらない。それから今までの社会矛盾ですね、教育に携わった方々の待遇がよくなかったの、先生の職から離れる人が多くなっているんですね。それから施設も長い間手入れしなかった、また増築しなかった。今ぼつぼつやっておりますが、社会の発展にまにあわないところがあり、たくさん問題が生じてます。教育だけじゃなくて、あらゆる分野で全部始めている、問題は。どういうふうに処理すればいいか今回の党大会、新しい人事をみんな見守っています。国家の問題を処理できるかと、みんな期待しています。

Q：「ベトナム子供基金通信」に30万円で校舎を建てたという話がでていました。もしNGOの団体がベトナムにこういう学校を建てたいといった場合は建てれるんでしょうか。

ホウエ：ベトナムでは建設費用が安いことがあります。れんが作り、コンクリート作りは、大体1平米は1万円と考えてください。それから、田舎。粗末な教室だったら5千あったら1平米できます。だから30万円で1教室できたのもあります。

遠い辺境のところに学校がまだないところがあります。実は私が日本に行くとのニュースを聞いて、もし学校を建てるとしたら、ぜひうちの田舎に学校を一つお願いしたいという頼みがたくさんあちこちから出てます。

私の考えでは、田舎のところですから、あんまり立派な学校でなくて、たとえば何教室もなくともいいのです。3教室ぐらいあればもうたいへんなことと、農民たちは喜んでくれます。そういう気持ちは、何年何十年後も、日本のみなさんが寄付した建物であるということで、その学校とともにずっと残ります。田舎では、外国人と接触するチャンスが少ないですから、「日本から贈ってきた」と、すごく有り難さがあります。

Q：まだ学校のないところに学校を建てるとすると、子どもさんも農村の貧しい地域では労働力として家庭に貢献しているんじゃないかと思われそうですが、通学することには問題はないんでしょうか。また教師のみなさんは、充分いらっしゃるんでしょうか。

ホウエ：私こういうふうに考えているんですね。援助は奨学金とちがって、一回の援助ですね。続いてだったら負担になります。もし建てたら運営費、維持費はみんな住民たちが責任を持ってもらうという条件がいいです。先生はどこからかという、やっぱりいます。それから学生を労働力に使うというのは違う。ベトナム人は子どもに勉強させるのがいちばんの楽しみです。お金を貯めるのと同じです。農村では子どもたちを学校にやるのが普通です。都会は違う。都会は考え方が違ってる。

農村は餓死がない。ご飯が満腹に食べられるんです。だから必ず子どもたちに勉強させるんです。都会は生活が厳しい。今日お金がなければ、ご飯がないから。街の子が勉強できないのは経済の問題。田舎の子どもたちが勉強できないのは学校がないからです。そういう体質が違いますから、田舎のほうが学校、大切にして、ちゃんとした先生でなくても、できる人から下に教えます。ですからそういう先生の問題はないと思います。学生の勉学も、私が数週間前に行ったところでは学校がなくて、郡がお金を出して、一つの小学校を作ったです。その学校に入るには、たくさんのお金出さなければなりません。そういうこと聞いてですね、そうですかと、お金出してもみんな学校に行きます。もしお金ださなくてもいいんだったら、もっとたくさんの方が勉強できるんじゃないかと思えます。

Q：奨学生の皆さんが学校を出られても、この奨学会と関係をもたれて、会報などで成長された証というものを皆さんにわかるような形で報告いただけないかと思うのですが。

ホウエ：一応、そういう学生が卒業したあとどういう道にはいるかと、そういうことはこれから私たち事務局に頼んで追跡してもらいます。その結果はまた里親の皆さんにご報告いたします。私たち、それから皆さんの気持ちですね、なんとか学生に伝えることが大事です。ここに集まった方々も年輩の方が多し、私自身も年をとってこういう仕事ができないだろうと。後継者、やっぱり青葉奨学会の奨学金で成長した学生に後を継いでもらうことを、私は期待しています。しかし、具体的にどうしたらいいかと、実は私たちこれからの課題です。私たちもあらゆる方法を考えて、なんとか学生に我々の気持ちをいれこんで、それから彼らにこういう運動の後を継いでもらうことも是非実現したいと思っております。



ミンハイ省ウーミンの小学校（左）と教室の様子（右）

--子供たちからの手紙--

子供たちから里親の皆さんへの手紙がとどきました。一部を紹介します。

恩人様

私の名前はポー・アイン・キエトでビン・ロイ・チュン 小学校2年生です。

私の家族は6人家族です。父と祖父と祖母が年寄りで、よく病気になります。父は歩道のそば、自転車を修理し、一日10000ドン（約百円）より収めます。母は幼稚園の先生で、給料は毎月200000ドン（約二千元）です。幼い弟がいます。保育園に預かってもらいます。

私の学習について報告させて下さい。小学校1年生の時、全学年の優秀成績を獲得し1番の順位で受賞しました。2年生になって、恩人からの奨学金をいただき、学習が続いてできますので、私は全学年の優秀成績も獲得し、受賞しました。奨学金を5ヶ月分いただき、残りは7ヶ月分です。学習が続いてできるようにご援助を継続していただけるようお願いいたします。恩人様の期待通りに答えることができるようにもっと頑張っって勉強することを約束します。

敬具

ポー・アイン・キエト
ホーチミン市

恩人様へ

私はトラン・ティ・スワン、アンニャン学校の中学校4年生です。

まず最初に恩人様と御家族の御健康をお祈りします。

私の家族についてどこから始めればわかりません。話きれないくらいです。でもまとめて話します。私の家族は兄弟がいっぱいです。長男、長女だけ結婚していますので今家には5人の兄弟と両親がいます。上の2人の姉と1人の兄がいます。そして1人弟がいます。私の家はゴバップ区という所で、ホーチミン市の郊外

にあります。

両親は歳をとって、母はよく病気になって、家事をしています。父は朝早くから夜遅くまで自転車に乗って働きにいきます。父は大工です。仕事は不安定です。給料も低いです。

兄弟は早くに学校を辞めて家族の負担を軽くします。

仕立ては時期によって仕事が変わります。時々失業になります。家族の収入は7000円位です。いろいろ生活費が足りません。

そして私と弟の為に、もっとかかって、もっと足りないのですが、私の家族はいつも幸せです。両親はいつも私を励ましてくれます。将来を求める為に、両親のようにならないように言っています。

昨年中、恩人様の奨学金をもらえて良かったです。

このお金は、私にとって、大金というより、応援の気持ちです。

このお金は、家族を、助けてくれました。ところで、両親は、恩人様に最も深い感謝の気持ちを送りたいそうです。私は、勉強を頑張ること以外、感謝の仕方がわかりません。恩人様のお陰で、私の結果は、はっきりと進歩しています。前期は‘良’という学生でしたが、全学期を通して‘優’という学生になりました。でも、まだ、いいとは思いません。だから、私は、もっと勉強だけでなく全ての面においても、頑張りたいと思います。恩人様が、がっかりしないように約束をします。終業式に学校から名誉賞と10冊のノートをもらいました。この賞をもらって、小さいものですがとても感動しました。その賞が、全てを、表わしています。そして、両親と、先生と、恩人様の心を思い出します。特に、今日の結果は、恩人様の結果です。

恩人様のお陰で、友達と一緒に、学校に行けるようになりました。この恩恵は忘れずに、頑張っって、勉強をします。それは、恩人様

への恩返しです。恩人様の奨学金はきれいでしたが、これからも奨学金の援助を、続けて欲しいです。

恩人様に、近い内に、お会いできることを、希望しています。

また次の手紙でお話しましょう。

恩人様へ

私は、グエン・ティ・マイ・ナー、ルン・バ・チャック連隊に所属しています8区P2ルン・バ・チャックに住んでいます。

恩人様、あっという間に学期が終わりました。今学期、恩人様が奨学金をくれたことに、とても感謝をしています。この奨学金のお陰で何とか学業を続けることができて‘優’の学生になりました。

次に、私の家族の状況を、述べます。恩人様、私の家族は6人で歳をとった父と5人の姉妹です。父は以前は塗装業をしていましたが、今は、バイクの運転手をしています。あとの5人の姉妹は学校に行っています。父が全て面倒を見てくれます。貧乏ですが、父は自分の子供

が勉強出来るように頑張って働いています。母が兄を2人の兄を連れて出て行きました。父は、私達が、母のこと以外にも勉強の心配をさせて苦勞させないようにしています。

私はどうお礼を言えばわかりませんが、恩人様のお陰で私が良い娘になったり‘優’の学生になりました。

恩人様、これ以上何も要求したくありませんが、8月に援助が切れてしますので、続けて欲しいです。

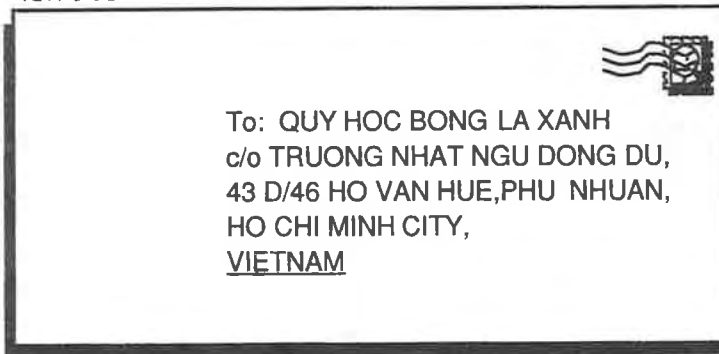
最後になりましたが、恩人様の御健康と、全てのことがうまくいくように、お祈りいたします。

グエン・ティ・マイ・ナー
ホーチミン市

注) 文中の「恩人」は奨学生の言葉をそのまま訳しました。

里子への手紙は青葉奨学会へ直接お出しください。
青葉奨学会でベトナム語の翻訳をつけて子供さんに転送致します。

青葉奨学会への宛名の書き方の例



- ベトナム青葉奨学会会計報告 -

1995年9月～1996年6月

(1) 収入の表は2月18日の子供基金新年会の前に青葉奨学会から送られてきたもので、1995年5月～1996年2月15日までのものです。

(2) 支出と(2-a)支出の内訳の表は6月以降に送られてきたいくつかの表を子供基金で整理したものです。

(1) 収入 単位：US\$

子供基金	47,617
北陸ベトナム友好協会	10,867
沖縄青葉奨学会	2,707
その他	2,265
合計	63,456

(2) 支出

		単位：VNドン	単位：US\$	
1995年9月 ～1996年5月31日	奨学金	64,548,000	5,868	*子供基金のみ
	管理費	24,790,194	2,254	
	合計	89,338,194	8,122	

(2a) 支出の内訳

単位：VNドン

	給料	文房具	連絡	その他	奨学金	合計
1995年9月	200,000	370,000	173,100	594,000	5,632,000	6,969,100
10月	200,000	93,000	80,000	228,000	5,632,000	6,233,000
11月	500,000	562,000	207,100	1,602,000	5,632,000	8,503,100
12月	500,000	631,750	2,521,200	1,310,000	5,632,000	10,594,950
1996年1月	1,000,000	433,000	189,000	221,600	8,404,000	10,247,600
2月	1,000,000	472,500	843,000	6,620,000	8,404,000	17,339,500
3月	1,000,000	408,500	242,316	35,000	8,404,000	10,089,816
4月	250,000	197,700	149,176		8,404,000	9,000,876
5月	875,000	365,150	392,388	323,714	8,404,000	10,360,252
合計	5,525,000	3,533,600	4,797,280	10,934,314	64,548,000	89,338,194

(3) 1996年5月31日現在の残高

$$63,456 - 8,122 = 55,334(\text{US\$})$$

子供基金事務局より

「ベトナム子供基金」が昨年6月に発足してから、早いもので既に1年5カ月が経とうとしております。この間、皆様の暖かいご支援を戴き、至らぬ点は様々ありますが、概ね順調に展開してまいりました。10月末日現在、団体を含む計365名の方にご参加戴いております。ベトナムの側では、この9月から受給する生徒を含めて、250名の子供たちがこの「ベトナム子供基金」から奨学金を受けています。また、「ベトナム青葉奨学会」では農村部の子供たちを支援するために学校/校舎を建設することを計画しています。「ベトナム子供基金」が順調に発展すれば、奨学金の面のみならず、教育環境の整備という面でも、ある程度ベトナムの子供たちに役立つことができるかもしれません。

ベトナムの学校制度では、授業がスタートするのは9月です。青葉奨学金も原則として9月から翌8月まで支給されます。また他に、私たちにわかりやすいようにと、毎年1月から12月まで支給されるものもあります。従って、前者なら8月に、後者なら12月に、受給希望者は継続の申請をしなければなりません。時期がくると、子供から里親に奨学金の継続願いを書いた手紙を「青葉奨学会」が「子供基金」事務局に送ってきます。事務局では翻訳に時間がかかることもありますが、出来るだけ早く皆様に転送しています。しかし、奨学生が間に合うように手紙を書けないこともあります。子供さんからの手紙が間に合うように届かない場合でも、できましたら継続支給の手続きを取って戴ければと思います。いろいろな事情で継続できない方もいらっしゃることは承知致しておりますので、無理のない範囲でということですが。

また、すでに2期目の会費をご送金下さった方や継続できない旨お知らせ下さった方にも再び継続依頼書を送付している場合もあると存じますが、これは当事務局の処理システムが不完全なためですので、失礼をお許し戴き、お捨て下さいますようお願い申し上げます。

私ども事務局の重なる不備をお許しください。

これからもベトナムの子供さんたちを暖かく見守ってくださいますよう、お願い申し上げます。(近藤)

会費納付は次のところをお願いいたします。
口座名義はいずれも「ベトナム子供基金」です。

郵便振替：00140-1-70399

銀行振込：富士銀行駒込支店 普通預金1495745

◆転居等で連絡先が変わった場合は、ベトナム子供基金事務局宛に連絡をお願い致します。

★ベトナム語の学習に関心のある方のために、アジア文化会館語学講座の案内を同封いたします。遠方の方にはお役に立てませんが、アジアセミナー室の仕事の一つがこの講座の運営なので、ご紹介致します。

◆ あとがき ◆

・「ベトナム子供基金通信」第3号は6月30日にアジア文化会館で行われた懇談会でのホウ工先生のお話しと質疑応答で紙面が尽きてしまいました。8月末から9月始めにかけてダラット市でのキャンプを子供と共に過ごすベトナム訪問ツアーを試験的に行ってみました。大体うまく行きましたので、若干の変更をした上で、また「青葉奨学会」と一緒に企画してみたいと思います。このツアーに関しては次号で報告致します。

・子供たちからの手紙を紹介しました。みんながんばってますね。読んでいて自分も「ベトナムの子供に負けないように仕事をがんばろう！」と思いました。

・10月第1週に穂高に行ってきましたが降雪のため頂上へは登れませんでした。それにしても紅葉がきれいでした。山小屋の情報では今年の紅葉のピークは1週間ほど早かったそうです。今年は冬の訪れが早いのもかもしれません。寒くなってきました。皆様、お身体にお気を付けください。

・子供基金に対するご意見ご質問等は郵便のほか電子メールでも受け付けます。

(NIFTY Serve ID:BXA01057, Internet経由:BXA01057@niftyserve.or.jp 担当 堀内 淳)